

【消息 報告】

・受難週祈禱会 報告
12名の兄弟姉妹と教職者2名で合計12名の出席でした。蒲田シオンとしては2年ぶりの祈禱会。声を出して、共に心を合わせる時を持てたことは大きな感謝でした。兄弟姉妹の証しにも恵まれました。今後、時期を見計らって午前の祈禱会から再開したいと考えています。

・礼拝堂座布団カバー交換
受難週祈禱会のあとで出席者の協力で交換をしました。ご奉仕された兄弟姉妹にはありがとうございます。新しい気持ちでイースターを迎えられることを感謝します。

・ウクライナ支援金 3月末までに7万円を超える献金が寄せられています。感謝します。先日、第2回目の送金として5万円を支援団体に送りました。引き続きお祈りください。

・病床の方々のためにお祈りください。

【本日の配布物】 3月度教会会計報告

兄弟姉妹が主を愛し、主と教会に仕える様を目の当たりにして御名を崇めます。主は、困難にある私たちと共にいると、改めてお示しくくださったと信じて感謝します。御名を崇めましょう。

No.3 2022・4・17

御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。」

マタイの福音書 28章 5, 6節

「どうして教会は十字架を掲げるのか？」
我が家の中学生の次男が友人から受けた質問です。その友人は、人を殺す道具を教会はシンボルとして掲げていることが不思議だったようです。的を射た質問であるなあと思います。

イエス様が十字架で死んで終わったならば、教会が十字架を掲げるのは悲劇的です。それは悲しみの象徴ではありません。そこにあるのは滅びの美学でしょうか。

しかし、キリスト教会が十字架を掲げるのは、そこに希望のメッセージがあるからです。

「主イエスはよみがえられた」

なんと希望に満ちたメッセージでしょう。イエス様は、人間の罪を解決し、死を打ち破って復活しました。十字架の死という悲しみが大きい喜びに変えられたのです。だから教会は十字架を掲げるのです。

福音書はイエス様の生涯について書いていますが大部分は受難週に割いています（マタイは全28章の4分の1）。十字架の出来事も26〜27章の2章にわたり多くの節が割かれています。十字架という暗い出来事が延々と書き記され、けれども、そのうちに復活が記されます。どんなに暗く闇のような状況も、神様に信頼するときに、その闇は人間の計画や力では計りきれない神の業によって明けるということです。

「十字架なしに栄光なし」という言葉があります。裏を返せば、「栄光のない十字架はない」のです。私たちは試みや苦しみを通されまします。しかし、神に信頼して助けを求めらば、神は私たちに道を開いてくださいます。復活の主に信頼しましょう。（泰）

4月17日 イースター礼拝

第1礼拝 9時 穂谷牧師 荻野し兄
第2礼拝 11時 荻野牧師 高橋美姉

前奏

招詞 詩篇32篇8節

会衆賛美 聖歌746(1〜3節)

会衆賛美 大いなる方に(1回)

主の祈り

交読 詩篇24篇1〜10節

礼拝祈禱

使徒信条

特別賛美 いざひとよ

聖書朗読 マタイの福音書

説教 28章1〜15節

説教 イエス様の復活

荻野泰弘牧師

洗礼式 (第2礼拝)

会衆賛美 聖歌127(1〜3節)

頌金

頌栄 聖歌377 すべての恵みの

祝祷

入会式

報告

感謝祈禱 奏樂

【招詞(主の招きのことば)】

詩篇32篇8節

「私は あなたがたが行く道で
あなたを教え あなたを論(まじ)そう。
あなたに目を留め 助言を与えよ
う」アーメン

【本日の予定】

■礼拝映像ネット配信
9時から

■礼拝後

・会堂清掃・礼拝堂イス拭き
・週報発送準備

■小学科礼拝 10時30分

(オンライン併用)

お話 荻野し兄

*荻野牧師は、本日夕方は東京育成園の夕礼拝に向向です。

【本日の奉仕者】

■第1礼拝

礼拝祈禱 林修養生
聖書朗読 司会者
献金1階 司会者
献金祈禱 司会者
報告 司会者
受付 司会者
配信 林修養生

■第2礼拝

礼拝祈禱 司会者
聖書朗読 司会者
献金1階 司会者
献金祈禱 司会者
報告 司会者
会場 林良男
受付 金川和子

【今週の予定】

ホザナ春のデイキャンプ

4月23日(土) 11時

講師 田辺寿雄牧師

(インマヌエル聖宣神学院)

諸々の事情で延期となっていました。今週末に蒲田シオンで開催します。若者たちのためにお祈りください。

イースター おめでとございます

今年の3月2日に始まった受難節(レント)は、先週のパームサンデー、そして受難週、受難日(4月15日)を経て、ついにイースターを迎えました。イエス様の十字架を忍びながら歩む日々は、今年も新しい気づきをもたらしたのではないのでしょうか。

教会暦が現在の形に整えられる以前、受難と復活は最も早く教会で大切に記念されました。それはクリスマスよりも早く初代教会の聖徒たちに覚えられました。当時の教会では年に一度、この日に洗礼式が行われました。イエス様の死と洗礼(バプテスマ)を重ね合わせ、永遠のいのちに生きる者とされたことを覚えたのです。

今、教会はコロナ禍で以前のような活動が制限されています。以前はイースターといえば『ゆで卵』が記念に配られました。卵は復活の象徴です。古い殻を破って新しい命が誕生します。困難な状況に囲まれていても、私たちは死をも打ち破る永遠のいのちに生かされていることを信じて受け止めます。

【受洗者紹介】

【入会者紹介】

【新型コロナウィルス関連】

※コロナ禍で教会活動も制限を受ける中、2020年イースター、2021年クリスマス、2022年イースターと受洗者が起こされていることを感謝します。
今後、コロナ禍で魂の渇きを覚えている方々が教会を訪ねてくると予想されます。福音が届き、救われる方が起こされるように祈りましょう。私たちが、聖霊の助けと知恵をいただきながら対応できるように祈りましょう。

■礼拝式について

*礼拝堂での出席を希望される方は、事前の申し込みをお願い致します。

・礼拝堂で出席の場合はマスク着用、手指消毒のご協力をお願いします。
・体調が優れない方は出席を控えてください。